

## 第1回 防災支援人材育成プログラム策定会議 議事録

日時：令和7年11月22日（土）10:00～12:00

場所：防災科学技術研究所 研究交流棟第1セミナー室

出席：（策定会議委員 五十音順）天野一男、井手よしひろ、笠島昇治、草間清那、桑野あゆみ、笹島俊秋、柴田美智子、長屋和宏、堀内隆博、松崎貴志、森剛勇、山本美和、吉田淳（計13名）  
（事務局）李泰榮、今泉賢吾、上田啓瑚、若泉政人

欠席：田中香織、野上大介

オンライン参加：なし

### 【議題】

1. 自己紹介
2. 防災支援人材育成プログラム（仮）について
3. 防災支援人材育成プログラムのカリキュラム検討
4. 事務連絡

### 【配布資料】

1. 「防災支援人材育成プログラムに関する研究開発」へのご協力をお願い
2. 第1回 防災支援人材育成プログラム策定会議－全体カリキュラムの検討－
3. 防災支援人材育成プログラム・カリキュラム案

---

**議題2 防災支援人材育成プログラム（仮）については、配布資料を投影しながら、事務局の李が説明を行った。説明内容の概要は以下の通りである**

- ① 災害対策基本法と地域防災
- ② 災害時の対応と日頃の備えの例（地震災害、豪雨災害）
- ③ 自主防災組織制度の創設
- ④ 災害リスクの上昇・増加、災害リスクの低減
- ⑤ 防災活動の課題
- ⑥ 地域防災の専門家・支援者＝防災士に注目、防災士養成講座、防災士に期待される活動・役割（防災士教本より）、参考：防災士等を対象にした人材育成の取り組み事例、参考：防災人材育成に活用されている教材、資料、ツール、プログラム等
- ⑦ 防災支援人材育成プログラムの概要、防災支援人材育成プログラムの基礎、地域防災ファシリテーション「形」の具体、地域防災ファシリテーション「形」の実践事例（常総市、斜里町）、防災支援人材育成プログラムのカリキュラム案

---

**議題3 防災支援人材育成プログラムのカリキュラム検討は、配布資料をもとに、李がカリキュラムを構成する6つのセッションとその「セッション名」、「セッションのねらい」、「セッションを構成**

する3つのパーツ（座学×2コマ、演習×1コマ）」のパーツごとの「学習目標」、「時間」、「学習内容」、「コンテンツ・ツール・資料等」の説明を行った。説明後、委員が意見を述べた。セッションごとの委員の意見及び検討事項等は以下の通りである

セッション	セッション名	委員意見	検討事項等
1	プログラムが目指すこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●（堀内委員）受講者が自分の得意・不得意、知識の不足を客観的に把握するための「自己分析パート」が必要</li> <li>●（堀内委員）地域支援をするには、自身がどこまで対応できるか認識が重要</li> <li>●（井手委員）OODAアプローチ、災害エスノグラフィーなど、専門用語が難しい。用語を理解できないと思考が止まる恐れがある</li> <li>●（堀内委員）フォローアップ研修など、一方的に聞いて終わる場合が多いため、プログラムの冒頭で、「なぜこの研修を受けるのか」、「講座を受けることで自分は何か変わるのか」を強く動機づける工夫が必要 ※能力や専門性のどこに不足があるのかを自己認識してプログラムに臨むことが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●セッション1の中で「自己分析の説明+簡単なアンケート」を組み込む方向で検討する</li> <li>●プログラム作成段階で、中学生でも理解できるレベルの言葉に変更する方針で進める。委員からの提案も受け付ける</li> <li>●セッション1はまさに「動機づけ」を目的としている。既存のフォローアップ研修と異なることを説明するセッションも設けているが、強化したい</li> </ul>
2	地域を知り、信頼を築く	<ul style="list-style-type: none"> <li>●（山本委員）「支援」という言葉が、要支援者支援などと誤解されやすい。地域主体を支える「ファシリテーター」のほうがよいのではないか。ファシリテーター、ファシリテーション自体はすでに完成されている</li> <li>●（天野委員）高校教科書（地学基礎・地理総合など）が災害特性理解に有用</li> <li>●（桑野委員）NHKのウェブで「地学基礎」コンテンツを紹介している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●名称を検討し、誤解のない表現を採用する</li> <li>●教材として活用を検討する。防災科研と交流がある多賀城高校は地理で有名である</li> </ul>

セッション	セッション名	委員意見	検討事項等
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●（堀内委員）このセッションが"キモ"だと思うが、信頼構築を40分の演習では短いのではないか</li> <li>●（堀内委員）「資格などの権威づけ」による信頼だけでなく、（自分も活動で実践している）ゲームなど住民との関係づくりが不可欠ではないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「信頼構築」は2つの信頼（能力への信頼、意図への信頼）で成り立つと考える</li> <li>●能力は観察内容の提示によって示せると考える</li> <li>●意図は“私はこう関わりたい”と住民に明示することで獲得できると考える</li> <li>●研修時間は制約があるが、現場では1～2週間使うべき工程だと考える</li> <li>●プログラムは、実証という形で、防災士の方参加してもらって研修をし、検証する予定</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●（井手委員）関わる地域に関してどのような資料を、どのように入手するかを示すことが必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域を把握するために有効なコンテンツ・ツール・情報を提供する</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●（長屋委員）自治体の防災ハンドブックも教材に入れるべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域防災計画など、地域に関わる情報、どこで入手できるかを提供 ※防災ハンドブックの扱いも検討する</li> </ul>
3	地域の災害リスクを把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●（堀内委員）海・山・都市など、地域により課題が違う。参加者は自分の地域に引きずられてしまうと思う。モデルケースを複数提示し、参加者が選んで演習できるようにした方がよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●グループごとに災害種別の異なる状況を付与し、発表形式で進める案を採用する</li> </ul>
3	地域の災害リスクを把握する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●（笠島委員）下妻市など内陸では津波の意識がなく、防災士でも読解が難しい部分がある。地域特性を踏まえて指導する必要がある ※防災士にも知識や能力に幅がある</li> <li>●（長屋委員）ハザードマップが読めないのであれば、防災士としては失格ではないか ※プログラムの対象とする防災士のレベルについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●セッション2の「観察」でハザードマップを調べる、支援する地域に入る前にハザードマップ見せる内容もあるので、そこに「ハザードマップの見方」など追加する</li> <li>●プログラムの対象者をどうするか悩んだ。プログラムはすでに活動されていて、「活動がうまく進まない」、「地域から受け入れてもらえていない」方などを対象にする</li> </ul>

セッション	セッション名	委員意見	検討事項等
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●（山本委員）知識や技術もあり、地域で活動している防災士で、茨城県防災士会に所属せず、日本防災士会だけ加入している方もかなりいる。そうした防災士に対してはどのようにするのか</li> <li>●（長屋委員）茨城県防災士会に所属せず、フォローアップ研修などにも参加していないが、地域に入り込んで活動している防災士に対し、プログラムについて伝える方法がない</li> <li>●（井手委員）地域リスクには災害だけでなく、社会特性（外国人・高齢化など）も含めるべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●常総市のように市独自の防災士会を作るなど、制度設計する方法もある</li> <li>●茨城県と防災支援人材の活動について連携を協議することや、リスク学会の「リスクマネージャー認定制度」のように、同学会で「地域防災ファシリテーター認定制度」を認証することなどを考えている ※今後の方向性として説明</li> <li>●プログラムは、初級レベルなので、人口構成など基本情報にとどめるが、社会特性の評価は検討したい。しかし、外国人に対する対応などはかなりレベルアップした内容だと考える。要配慮者などへの対応は今後の検討したい</li> </ul>
4	災害時の課題と対応策を検討する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●（堀内委員）対策を検討する際、優れた地域防災計画や成功例を提示すると議論が深まる</li> <li>●（堀内委員）モデルとなる事例を検索できるツールがあるとよいと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●セッション2の「観察」のところで、コンテンツとして地域防災WEBなど紹介する。使い方も説明する</li> </ul>
5	災害時の対応策を実行・評価する	<ul style="list-style-type: none"> <li>●（吉田委員）住民向けの課題検討、解決策決定用のワークシート作成方法も必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ファシリテーター用のワークシートは用意するが、ファシリテーターされる住民用のワークシートは考えていない。意見のグルーピングなどで使用するものなど検討する</li> </ul>
6	効果を評価し、実践知を共有する	特になし	特になし

以上